

第2号様式

法令適用事前確認手続 回答書

令和2年10月30日

弁護士 小杉晴洋 殿

自動車局貨物課長

令和2年9月23日付けをもって照会のあった件について、下記のとおり回答します。

なお、本回答は、照会に係る法令の条項を所管する立場から、照会者から提示された事実のみを前提に、照会対象法令の条項との関係のみについて、現時点における見解を示すものであり、もとより、捜査機関の判断や罰則の適用を含めた司法判断を拘束するものではありません。

記

1 回答

他人の需要に応じ、有償で、自動車を使用して貨物を運送する事業については、貨物自動車運送事業の許可等が必要となり、当該事業に該当するかどうかは、個別の運送形態を踏まえて、実質的に判断することとなる。

照会のあった事実に関しては、本件運送行為1、2の業務がA社の生業に含まれる場合であって、運送行為が保管等業務（生業）に付帯した必要不可欠な運送と判断される場合において、名目の如何を問わず実質的に運送に対する対価の支払を受けていない場合などについては、照会法令（貨物自動車運送事業法第3条）の適用対象とならない場合があると考えられる。

しかし、本件運送行為1、2については、運送費として収受していないが、業務委託料としての対価は発生していること、一般論として、保管等業務と運送行為について、当該運送行為が密接不可分な行為であるとは判断し難いことなどから、照会法令（貨物自動車運送事業法第3条）の適用対象となると考えられるが、いずれにしても個々の実態に即して判断されることとなる。

2 当該事実が照会法令の適用対象とならないことに関する見解及び根拠

貨物自動車運送事業とは、他人の需要に応じ、有償で、自動車を使用して貨物を運送する事業をいい、当該行為については、貨物自動車運送事業法に基づく許可等が必要となる。

ただし、このような行為であっても、当該運送行為が自己の生業と密接不可分であり、その業務に付帯して行われる場合は、当該運送行為が主要業務の過程に包摂しているものと認められ、貨物自動車運送事業法上の許可等を要しないこととしている。